

はじめに

子どもを指導する上で、「叱り」は日常的に行われています。きまりを守らない子や間違った行いをした子に対し、時には厳しく、ある時はたしなめるようにして、程度の差こそあります。が、注意を促し、反省をさせ、改善するように指導します。

ところが、近年、「叱り」を「威圧的」「暴力的」な指導方法だと、間違つて解釈する傾向にあります。社会問題にもなっている「体罰」や「児童虐待」までもが、叱りの延長線上にあるかのような考え方をする人までいます。しかし、「叱り」とは、子どもを威圧することではなく、ましてや恐怖心をあおつて命令することでもありません。子ども自らが、反省と改善に向かう力を身につけさせるのが、「叱り」本来の目的です。それを理解することができれば、「叱り」は必要不可欠な指導法であることを理解することができると思います。

ここ数年、「叱らない指導」や「ぶつからない指導」といった言葉を耳にするようになり

ましたが、このよつたな方法は、決して「子どもをまったく叱らない」といふものではありません。些細な場面で子どもの言動に釘をさすことによって、子ども自身に自らの間違いに気付き改善する力を身につけさせる指導法です。ですから、このよつたな指導法は、あからざまに教師が厳しい態度で臨む状況に至らないための「叱り指導」と言つことができます。「叱っていない」ではなく、「叱られたと感じさせない」ように指導する、「上級の叱り方」なのです。「叱らない指導」「ぶつからない指導」とは、叱り技術に長けた名人級の教師が、長年の経験と研究によつて身につけた技であつて、決して叱ることを否定した指導方法ではないと、私は解釈しています。

ところが、「叱りは子どもとの信頼関係を崩す」「叱りでは子どもは伸びない」という誤った解釈をしている若い教師が多くいるように感じます。もし、経験も指導力も未熟な教師が、表面的な言葉尻だけに惑わされて、「叱らなくても指導ができる」「叱つて指導してはいけない」などと勘違いしてしまえば、必要な時に必要な叱りができるない教師になってしまふおそれがあります。そしてそれは、「子どもの成長を促す」という教師の責任から逃れ、単に報酬を得るために働く『キョウウシ』への道を選択することになる」と言つては言い過ぎでしょうか。

特に、集団生活のきまりを教え、生活習慣の基礎を教える小学校では、子どもを叱らな

いで指導することなど考へられません。叱ることで子どもを教え導くことは、時代が流れ、子どもたちを取りまく社会状況が変化し、人々の価値観が変化しても、変わることはあります。叱つて子どもを教え導く「叱り」という指導方法は、昔から受け継がれて現在に至っています。叱りは、まさに不易の指導方法なのです。

もつとも身近でもつとも長い歴史のある「叱り」という指導方法がもつ、「子どもの自律心を育てる」というねらいを達成するためには、現在の子どもや保護者に適した効果的な方法を工夫することが必要になつてきます。本書では、学校生活のさまざまな場面を取り上げ、「信頼される教師」とは、どのような凄ワザの叱り方で子どもを指導するのかをステップアップ方式で考えてみました。手にとつてくださつた方にとって、本書がご自身の叱り方を振り返り、明日への指導に役立つものとなれば、これほど光栄なことはありません。

なお、小著発刊にあたり、学陽書房の皆様にはたいへんお世話になりました。末筆になりましたが、この場をお借りして、深謝申し上げます。

平成二十九年六月

中嶋郁雄

CONTENTS

はじめに 3

Introduction —なぜ、教師は叱れなくなってしまったのか? 16

Chapter 1 「JJKをおさえれば凄ワザ教師! 子どもを変える叱り方8つのポイント

「学年・性別・キャラ・状況」に合わせて叱る 24
「本気」で叱る 26
「沈黙」で叱る 28
「気付き」で叱る 30
「納得」させて叱る 32
「問い合わせ」で叱る 34
「ほめられてる」と感じさせるように叱る 36
「ユーモア」をもつて叱る 38
Column 1 期待するから叱る 40

Chapter 2

子どもがみるみる変わる! 生活指導での叱り方

1 挨拶や返事をしない 42
フツウの教師▼そのつど「挨拶・返事をしなさい」と叫ぶ デキる教師▼なぜ挨拶が大切であるのかを教える 凄ワザな教師▼毎日元気に挨拶をして見本を示す
2 ウソや言い訳を言う 44
フツウの教師▼「JJKめんなやこ」と言わせる デキる教師▼ウソや言い訳は悪いことだと理解させる 凄ワザな教師▼過ちを認めるすがすがしさを体感させる
3 亂暴な言葉をつかう 46
フツウの教師▼「乱暴な言葉をつかってはいけない」と戒める デキる教師▼教師自身が常に言葉づかいに気を付ける 凄ワザな教師▼体験指導で言葉の影響力に気付かせる
4 教師にため口をきく 48
フツウの教師▼その場で言い直しをさせる デキる教師▼厳しくサッと表情を変えて一喝する 凄ワザな教師▼「です」「ます」を習慣つけて授業を行う

Chapter

3

成長をググッと引き出す! 学級活動での叱り方

- 1 当番活動や掃除をサボる 60
 - フツウの教師 ▼ 真面目にやるよつに注意する
 - デキる教師 ▼ 「忘れたのかな?」と気付きをあたえる
 - 凄ワザな教師 ▼ 「頼りにしているよー」と自尊感情にはたらきかける
- 2 公共物を破損する 62
 - フツウの教師 ▼ 破損したことを謝罪させる
 - デキる教師 ▼ 公共物を破損することの重大性を理解させる
 - 凄ワザな教師 ▼ 後始末の手順を教えて責任をとらせる
- 3 クラスの決定事項に不平を言う 64
 - フツウの教師 ▼ 「卑怯なことだよ」と戒める
 - デキる教師 ▼ 反対意見をみんなの前で言えるよつにさせむ
 - 凄ワザな教師 ▼ 話し合い前のマナー確認を徹底させる
- 4 行事やイベントに参加しない 66
 - フツウの教師 ▼ 当然のこととして参加させる
 - デキる教師 ▼ 理由を聞いて、場合によつては見学させる
 - 凄ワザな教師 ▼ 参加のさせ方の工夫で楽しさを体感させる

5

髪を染めてきたり服装が乱れたりしている 50

フツウの教師 ▼ 学校は勉強するところだと注意する

デキる教師 ▼ 「格好いい」は見かけではないと気付かせる

凄ワザな教師 ▼ 日頃から魅力や持ち味を自覚させるメッセージを送る

6 ルールを守らない 52

フツウの教師 ▼ 「勝手は許さない」と強く言つ

デキる教師 ▼ 他の子の本音を聞かせてルール厳守を促す

凄ワザな教師 ▼ 子ども同士で注意し合うクラスに育てる

7 不必要な物を持つてくる 54

フツウの教師 ▼ 「持ってきてはいけない」と禁止する

デキる教師 ▼ 保護者の協力を得ながら指導する

凄ワザな教師 ▼ ルールの「全員確認」を習慣づける

8 整理整頓ができない 56

フツウの教師 ▼ 「整理整頓をしなさい」と注意する

デキる教師 ▼ 整理整頓タイムで片づけるクセをつけさせる

凄ワザな教師 ▼ 整理整頓の必要性を子どもに気付かせる

Column 2 叱りの新たなステージ 58

5

給食のおかわりをいつも独占する..... 68

フツウの教師▼ジャンケンで決めさせる

デキる教師▼おかわりしたい子全員で等しく分ける

凄ワザな教師▼全員が楽しく食べられるルールを決める

6 好き嫌いが激しく給食をたくさん残す.....

フツウの教師▼食べ残しが出ないように励ます

デキる教師▼事前に完食できる量を確認して配膳させる

凄ワザな教師▼スマートステップ方式で自信をつけさせる

7 食べ物を粗末にする..... 72

フツウの教師▼二度としないと約束させる

デキる教師▼悪いことだと理解させながら反省させる

凄ワザな教師▼定期的な食育指導で感謝の気持ちを育む

8 飼育動物を傷つける..... 74

フツウの教師▼クラス全員の前で謝罪させる

デキる教師▼命の大切さについて考える

凄ワザな教師▼「一人一鉢運動」などの実践で命の大切さを体験させる

Column 3 叱られる」とは、感謝すべき」と..... 76

Chapter

4

学ぶ意欲がどんどん高まる！ 授業中の叱り方

1 授業が始まつても着席しない..... 78

フツウの教師▼すぐに着席するよう注意する

デキる教師▼遅れた人を待たないと気付かせる

凄ワザな教師▼時間厳守を徹底して常に定刻に始める

2 授業に必要な物をよく忘れる..... 80

フツウの教師▼忘れないように注意して、代用品を使わせる

デキる教師▼忘れない方法をその子に合わせて考える

凄ワザな教師▼子ども自身に解決方法を考えさせる

3 椅子に正しい姿勢で座れない..... 82

フツウの教師▼すぐにやめさせる

デキる教師▼事故になる危険行為であると厳しく戒める

凄ワザな教師▼日頃からの頻繁なチェックで正しい姿勢を身体に覚え込ませる

4 おしゃべりしたり、こっそり遊んだりしている..... 84

フツウの教師▼授業妨害であるとやめさせる

デキる教師▼「みんなの前でやらないさい」と公開を求める

凄ワザな教師▼発問や指名の工夫で遊んでいる場合ではないと思わせる

Chapter 5

クラスのまとまりがアップする! 友達関係の叱り方

- | | | |
|---|-----------------------------|-----|
| 1 | すぐに友達に暴力をふるう | 96 |
| | フツウの教師▼暴力をふるった相手に謝罪させる | |
| | デキる教師▼別室で落ち着かせて反省を促す | |
| 2 | ケンカをしても謝らない | 98 |
| | フツウの教師▼双方に謝らせる | |
| | デキる教師▼理由を聞いてから謝罪させる | |
| | 凄ワザな教師▼何が相手を怒らせたかを振り返らせる | |
| 3 | 自己中心的な行動をとる | 100 |
| | フツウの教師▼自分勝手は友達の迷惑になると気付かせる | |
| | デキる教師▼家庭環境などストレスの原因から対応する | |
| | 凄ワザな教師▼子ども同士で注意し合える関係を築かせる | |
| 4 | 友達の物を隠したり取つたりする | 102 |
| | フツウの教師▼人の物に勝手にさわらないように注意する | |
| | デキる教師▼人の物に勝手にさわらない姿を徹底して見せる | |
| | 凄ワザな教師▼その子の背景を探り、周囲と連携・対応する | |

- | | | |
|----------|----------------------------------|----|
| 5 | 勝手に立ち歩いて授業を妨害する | 86 |
| | フツウの教師▼授業を中断して、席に座るよう注意する | |
| | デキる教師▼授業をどんどん進めていく | |
| | 凄ワザな教師▼妨害行為は注目されないと気付かせる | |
| 6 | 分からない子や運動が苦手な子をバカにする | 88 |
| | フツウの教師▼授業をいつたん中止して厳しく戒める | |
| | デキる教師▼クラス全体の問題として考えさせる | |
| | 凄ワザな教師▼失敗や間違いを獎励してプラス思考のスポットをあてる | |
| 7 | 答え合わせのごまかしやカணーニングをする | 90 |
| | フツウの教師▼二度としてはいけないと厳しく指導する | |
| | デキる教師▼その場は見て見ぬふりをして、後で話をする | |
| | 凄ワザな教師▼間違いが人を成長させると理解させる | |
| 8 | 校外学習や遠足などで勝手な行動をとる | 92 |
| | フツウの教師▼勝手な行動を発見したら逐一注意する | |
| | デキる教師▼班を中心にチエック体制をつくる | |
| | 凄ワザな教師▼きまりを守れたら自由をあたえて責任感を芽生えさせる | |
| Column 4 | 体罰について思うこと | 94 |

••••• なぜ、教師は叱れなくなってしまったのか？

「叱り」の本質を忘れていないか

「叱^ける」とでは「子どもは伸びない」と「叱^ける」とに否定的な考え方を耳にすることがあります。また、最近では、「子どもを叱ることができない」「ものよつに叱ればよいのか分からぬ」と悩む保護者や教師の声を多く聞くようになりました。

人は昔から、子どもを叱つて育ててきました。子どもが大人になった時、所属する集団や社会に適応しながら自己実現する力を身につけることができるように育ててきたのです。その方法として、叱りは必要不可欠な手段として、代々受け継がれてきました。集団の和を乱す行いや、他人に迷惑をかける行いに対して、子どもを厳しく叱つてしまつた。子どもの将来のために叱つて育てることに、今も昔も変わりありません。

自分の子どもが、他人に迷惑をかけたり、社会のルールを破つたりすれば、親であれば、必ず叱つ

て教えるはずです。子どもを正しい方向に教え導くことは、親の願いでもあり、責任でもあるからです。我が子が、非社会的・反社会的な人間に育つてもよいと言ふ親はいません。叱るという行為は、親としての愛情からくる、いわば本能的な行為と言つることができます。

福澤諭吉やジョージ・ワシントンなどの偉人も、幼い頃に叱られた有名なエピソードを残しています。洋の東西を問わず、叱りは、未来を担う子どもを一人前に育てるという「教育的行為」であり、相手のことを思つて行う「愛情的行為」なのです。そしてそれは、おそらく人類が誕生した時から脈々と受け継がれてきた不易の教育方法でしょう。叱りとは、教育そのものであると言つても過言ではありません。

「叱り」が信頼を勝ち取る

子どもの不足や失敗を、見て見ぬふりをしてやり過ごしていると、教師としての指導力が疑われることになります。「先生は、頼りにならない」と、子どもたちからの不満が高まることがあります。保護者からは、「その程度の指導もできないの?」と思われることになるでしょう。

指導するべき子に対して、教師であるあなたがどのように対応するのか、周りの子どもはもちろんのこと保護者も、そして同僚や管理職もしっかりと見ていています。ダメなことはダメ、間違いは間違いと叱つて反省を促す……。人を教え導く教師として、自信をもつて毅然とした態度で指導することのできる力量をもつ努力をしなくてはなりません。

「人から嫌われたくない」「みんなとうまくやりたい」と思う人ほど、じつは多くの人からの信頼を

1 … 「学年・性別・キャラ・状況」に合わせて叱る

— 叱り方に決定的なマニュアルはありません。子どもの発達段階や性別、性格、その時々の状況に応じて、方法を変える必要があります。

●発達段階に応じて、徐々に子どもに考えさせる幅を広げていく

学年に応じて、言葉づかいや表情など、叱り方を変えるのは当然です。忘れてはならないのが、「子どもに考えさせる幅を広げていく」ことです。反省し改善すべき指導事項を、教師が具体的に教える叱り方から、学年が上がるにつれて、徐々に、子ども自身

に気付かせ、自ら反省して行動を改善せるような叱り方に変えていく必要があります。大人になれば、自分で自分を戒めなくてはならなくなります。そのことを忘れずに、「自律心」を育てる叱り方を意識しましょう。

●子どもに応じた叱り方が、指導の効果を高める

同じ言葉であっても、男子と女子とでは、受け取り方がずいぶん異なります。子どもの性格によつても、受け取り方は十人十色です。特に叱りは、子どもの感情を大きく揺さぶる指導法です。厳しい態度で叱つたほうが効果的な子もいれば、恐怖心だけを植え付けてしまつ子もいます。子どもの心に響く効果的な叱り方にするためには、日頃から子どもをしつかり観察して、子どものキャラクターを熟知しておくことが大切です。

●場の雰囲気や状況を見て瞬時に判断

叱る内容に応じて、叱り方を変える必要があります。どんな時も同じ調子で叱り続けていると、子どもは、何が本当に大切なことなのかが分からなくなってしまいます。また、全体の中で叱つたほうがよいのか、個別のほうがよいのか……。今この時に叱るべきか、後にしておいたほうがよいのか……。その時、その場の状況を見極めて、瞬時に判断し、最善の叱り方を選択しなくてはなりません。

効果的な叱り方ができるようになるためには、単に注意していればよいといつものではありません。

1 挨拶や返事をしない

- 教師が教え続けても、身につきづらい
 - 子どもに心地よさを感じさせん
 - 心地の悪い「挨拶」は無意味
- 挨拶や返事の指導に力を入れている学校や教師は多いのですが、思つような成果はなかなか表れません。「挨拶しなさい」「返事をしなさい」と口を酸っぱくして言えれば言つほど、子どもは強制的にやらされている感をもつてします。それでは、一時的に特定の人だけ挨拶や返事をするにとどまり、習慣として身につくことはありません。
- が必要です。

+ one point

ゲーム化して、挨拶や返事を楽しみながら身につける方法も取り入れよう！

フツウの教師は、「そのつゞく「挨拶・返事をしなさい」と言つて、デキる教師は、「凄ワザな教師は、なぜ挨拶が大切であるのかを教える毎日元気に挨拶をして見本を示す